

SOS ニュース

「なぜ減らない長時間労働」

～昨年正社員の残業最長に～

日本人の長時間労働が減らない。2014年データを見ると残業時間は年172時間で前年より7時間、20年前より36時間、統計をさかのぼれる1993年以来、最長になった。政府や企業が労働時間の短縮を掲げながら、なぜ改善しないのだろう。

厚生労働省の毎月勤労統計調査で、フルタイムで働く正社員の残業を調べた。週当たりになると約3時間だ。多くの産業で延びており、特に貨物運送業（年463時間）、自動車製造業（年275時間）、情報サービス（年248時間）が目立つ。統計で見えない「サービス残業」を含めると、実態はもっと長そうだ。…中略

日本の労働時間は短くなっているとの指摘もある。経済協力開発機構（OECD）の統計をみると、ルール上の労働時間と残業時間を合わせた総労働時間は足元では1800時間を割り込み、米国やOECD平均を下回っている。1990年まで年2000時間を超え、米国やOECD平均を大きく上回っていた。だが、これは労働時間が正社員のおよそ半分とされるパート社員も含めた数字だ。日本では働く人に占めるパート社員の比率が90年の15%から最近では30%まで上がってきた。これが平均の総労働時間を押し下げている。正社員に絞った総労働時間は2014年に2021時間で、ここ10年以上はほぼ横ばいだ。週休2日制の普及でルール上の労働時間は減っているが、残業時間が増えており、働く負荷はへっていない。・・・サービス残業ばかりか、パートを使った総労働時間のうすめ等、何とか体裁は整えても正社員の労働実態は昔と変わらないのが日本の労働事情、とあきらめているわけにはいきません。長時間残業とうつの関係性が問われ、父よ早く戦場から戻り、生めよ育てよというかけ声が響く時代なのですから。